

「タンポポ調査・大阪2025中間報告」
今年3～5月の調査にご協力を！

文

木村進（理事、タンポポ調査委員会）

タンポポ調査2025への取組み
—第1回調査から50年目—

私たちは大阪で1974～1975年に実施した第1回調査から50年目となるタンポポ調査2025に取り組んでいる。2024年春に予備的に行い、2025年3～5月に本格的な調査を行って集約することを計画しており、ここでは2024年春の結果をタンポポ調査2025中間報告として紹介し、特に調査地点が少なかった地域での調査へのご協力をお願いしたいと考えている。また、この調査は大阪だけではなく、タンポポ調査西日本2025として、近畿・四国・中国地方の全域で行っており、大阪以外での調査報告も歓迎する。詳しくはホームページ（「タンポポ調査西日本」で検索）参照。

2024年タンポポ調査の結果
—外来種が再び増加か？

2024年春も皆様のご協力で6,365件のデータが集まった。これは前回2020年の約13,000件の半数程度である。今回の結果では、2005年以来減少傾向にあった外来種の割合が図-1のように、2020年の59.4%から62.1%へと、わずかに増加した。しかし、前回より調査地点が少なく、また、調査できた地域が都市域に片寄っているために、本当に増加しているかはよくわからない。前回と今回のメッシュ地図を比較すると図-2のようになり、調査ができていないメッシュがまだ多く残り、そのメッシュは周辺の在来種が優勢な地域にやや片寄っている傾向があり、それらの地域の調査が進めば、外来種率は横ばいか少し減少している可能性も考えられる。

また、各メッシュの外来種率の変化をまとめると図-3のようになり、

2020年と2024年では、在来種の多いメッシュの割合には変化が見られず、外来種が80%以上のメッシュが増加し、40～60%のメッシュが減少していることがわかる。多くのメッシュでの調査ができるよう、皆様には今年3-5月の調査では、昨春に調査ができなかった地域を中心にご協力をお願いしたい。

タンポポの生育環境
—外来種・在来種ともに生育環境が変化？—

50年目となる今回は、タンポポの生育環境に変化が生じているかについて調べるために、堺市で1975年と1999年に行ったのと同じ方法で生育環境の調査を実施した。両種のタンポポが見つかった環境をまとめると図-4のように、カンサイタンポポは1975年と1999年には農地で最も多く見つかったが、2024年には半数が公園で発見され、農地は30%程度に減少した。一方、セイヨウタンポポは1975年には車道沿いが一番多かったが、1999年・2024年には公園がもっとも多くなり、1975年にはわずかであった農地でのセイヨウタンポポの出現率が急増した。

次に両種のタンポポが発見された場所で土壌を採取して、pH・含水率・有機物含有率を測定して50年間の変化を調べた。最も顕著な変化を示

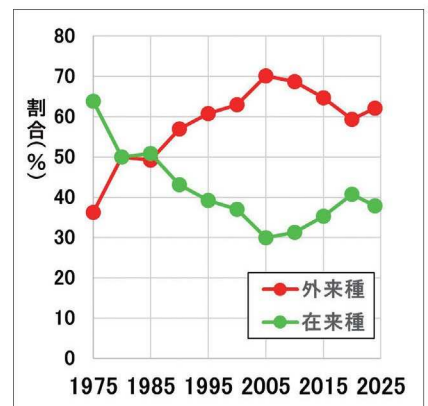


図-1 外来種率の経年変化(大阪府)

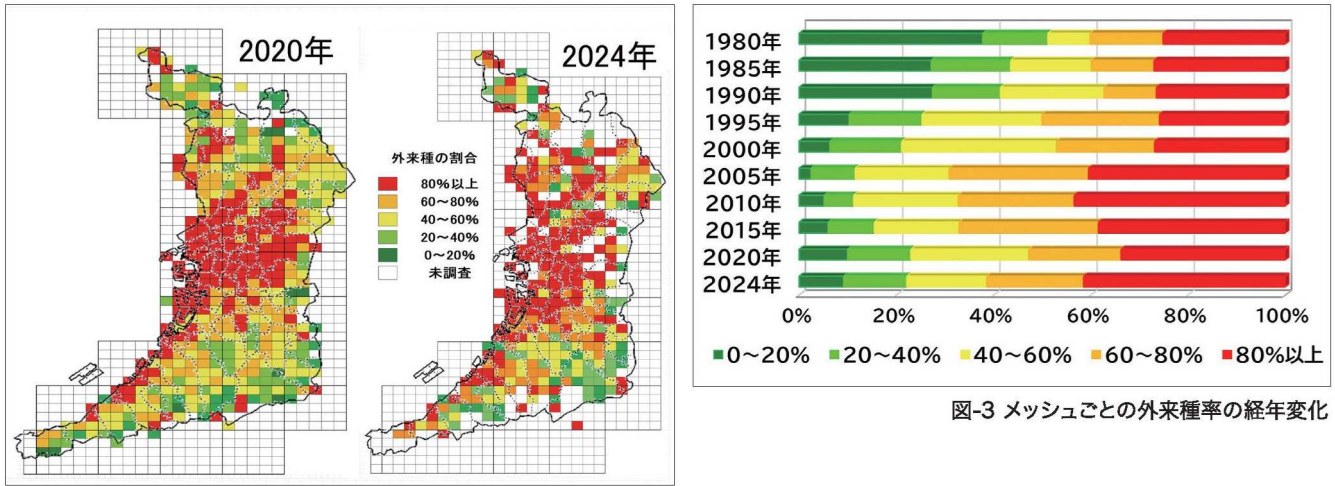


図-2 大阪府のタンポポメッシュ地図(2020年・2024年)

図-3 メッシュごとの外来種率の経年変化

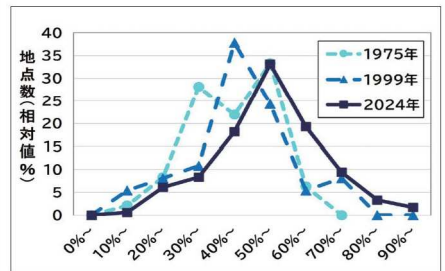
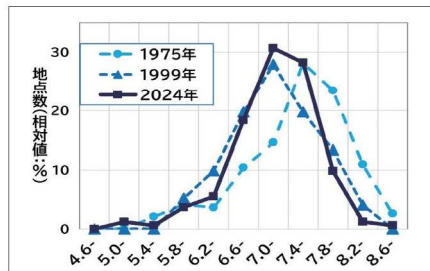
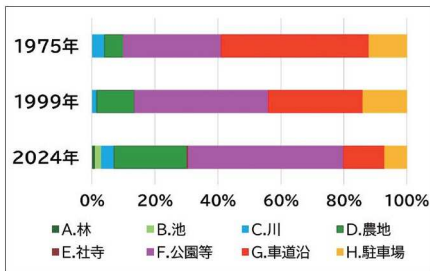
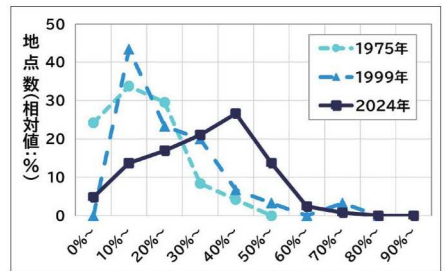
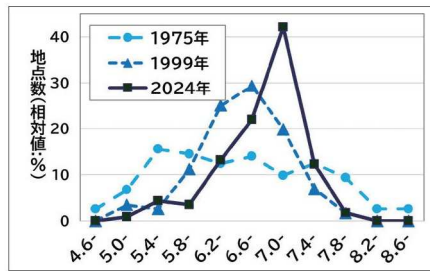
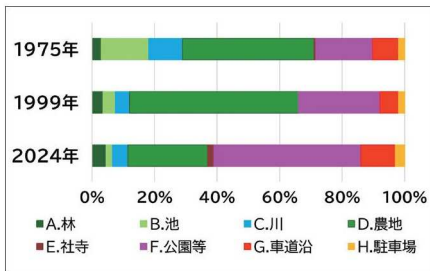


図-4 タンポポの種離別生育環境の変化 (上:カンサイタンポポ, 下:セイヨウタンポポ)

図-5 タンポポの生育地の土壌pHの変化 (上:カンサイタンポポ, 下:セイヨウタンポポ)

図-6 タンポポと混生する植物の外来種率の変化 (上:カンサイタンポポ, 下:セイヨウタンポポ)

した土壌pHの変化を図-5に示した。カンサイタンポポの生育地の土壌は1975年には弱酸性であったが、1999年はやや中性寄りに変化し、今回はpH7がピークとなった。一方、セイヨウタンポポの生育地の土壌は反対に1975年には弱アルカリ性であったが、次第に中性に変化し両者の差が小さくなった。

また、両種のタンポポの周辺1m×1mに生えている混生植物の調査も行ったところ、カンサイタンポポと混生する外来種の割合のピークは1975年と1999年には10~20%であったが、今回は40%台へと急増した。セイヨウタンポポでもやや増加傾向であったが、3回とも40~50%台がピー

クで大きな変化はなかった(図-6)。

この50年間で在来種との雑種タンポポが増加しているので、雑種を含むセイヨウタンポポの生育環境が在来種寄りに変化しているのは予想通りであったが、カンサイタンポポの生育環境がこれほど変化していることは想定外で、その原因については、タンポポ調査の根幹にも関わることであり、今後検討を進めたい。

2025年春の調査へのご協力をお願い

2024年春の調査にはかなり片寄りがあり、データが非常に不足している地域がある。特に集中的に調査が必要な市町村と、それについて調査

が必要な市町村は以下の通りである。特にこれらの市町村にお住まいの方は調査へのご協力をお願いしたい。さらに詳しい2024年調査の結果はタンポポ調査のホームページに掲載しているので、今春の調査地点を決める参考にしてほしい。

【調査地点が非常に不足】

島本町・吹田市・四條畷市・大東市・田尻町

【調査地点がやや不足】

能勢町・豊能町・高槻市・茨木市・箕面市・交野市・寝屋川市・守口市・大阪市・東大阪市・柏原市・松原市・太子町・岸和田市・泉佐野市・泉南市・岬町